

1. 趣旨

この報告書は、平成 27 年度に策定した「市川市立図書館運営基本計画」の「第二次実施計画(平成 30 年度～令和 2 年度)」の実施結果について評価と分析を行い、今後の図書館運営に活かしサービスの向上に資するものである。

2. 実施結果・評価概要

図書館運営の目標として立てた 3 つの柱の下に掲げた全ての事業に取り組むことができた。

一つ目の柱「情報拠点として市民の学びを支える図書館」については、IC タグによる全館での蔵書管理を開始し、また、利用者の利便性の向上のため関連施設と連携を強化し市北部地域の図書館サービスの拡大を図った。二つ目の柱「子どもの成長をサポートする図書館」では、子どもやヤングアダルト世代向けのイベントやパスファインダーの作成等、子どもたちと図書館や本を結びつけるための様々なアプローチを行った。また、教育センター等と連携して継続的に調べ学習を支援するなど、子どもの読書環境の充実に努めた。三つ目の柱「地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館」では、地域行政資料の収集を積極的に行い、ホームページやデジタルアーカイブシステムを活用した情報発信を行った。全体として、目標はほぼ達成することができ、3 カ年の図書館運営は一定の成果を上げたといえる。

今後は、次の 3 カ年で予定している図書館ホームページやデジタルコンテンツ等の情報環境の整備、また電子書籍や非来館型サービスについて調査及び導入を検討し、ICT 機器を使った蔵書管理の発展的な実施により効率的、効果的な図書館運営を進め、市民が全市域で様々な図書館サービスを利用できるよう努めていく。

[3 カ年の実施結果と評価]

一つめの柱 情報拠点として市民の学びを支える図書館

施策の方向

様々な市民の学習要求に
応えられる、蔵書の収集と維持

図書館機能を活用した、
生涯学習機会の提供と充実

関連機関とのネットワークの充実
と、質の高いサービスの提供

具体的な施策

- ・蔵書の維持と更新
- ・利用に応じた様々な形態の資料の充実
- ・効果的な蔵書管理
- ・資料保存のための書庫の確保
- ・レファレンスサービスの充実
- ・利用しやすい情報環境の整備
- ・生涯学習機会の拡充
- ・関連機関との連携による、各地域における図書館サービスの充実
- ・大学図書館との連携と利用の促進
- ・ボランティアとの連携強化

平成 30 年度～令和 2 年度の主な取り組み内容

積極的な資料の更新／図書館全館の IC タグによる蔵書管理の開始／自動貸出機・自動返却機の導入（中央・行徳）／IC 予約棚の設置（中央・行徳）／座席管理システム・書庫出納管理システム・デジタルサイネージの導入（中央）／レファレンスサービスの充実／事例集「参考業務月報」・パスファインダーの発行／西部公民館図書室の蔵書管理と利用者管理を図書館と一元化／図書館関連ボランティアとの連携（イベント連携・障がい者向け資料の作成）

評価と今後の方向性

評価	<input type="checkbox"/> 充分達成できた	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成できた	<input type="checkbox"/> やや不十分だった	<input type="checkbox"/> 不十分だった
図書館情報システムの更新に伴い IC 機器を導入し、全館での IC タグによる蔵書管理を開始した。中央図書館及び行徳図書館では、自動貸出機、自動返却機、IC 予約棚を新たに設置し、効率化を図った。西部公民館図書室の蔵書管理と利用者管理を図書館と一元化し、北部地域の利便性の向上につながった。蔵書については、適正な資料の選定・維持を図り、電子資料等媒体にとらわれない情報資源の導入・整備に努め、図書館利用を促進する取り組みを引き続き進めていく。				

二つめの柱 子どもの成長をサポートする図書館

施策の方向

発達に応じた豊かな読書のための
環境整備

公共図書館と学校等との連携の強化

具体的な施策

- ・児童・青少年資料の充実
- ・行事の実施と情報の発信
- ・レファレンス・読書相談の実施
- ・ヤングアダルトサービスの実施
- ・出張おはなし会・学級招待の実施
- ・調べ学習及び読書環境向上のためのサポート

平成 30 年度～令和 2 年度の取り組み内容

資料の更新／えほんの会ぷらす（えほんの会と工作あそび）の開始／関連機関と連携したイベントの実施／小学校 1 年生向け利用案内の配布／子ども向けパスファインダーの発行／中高校生向け「Young Adult 通信」の発行／中高生参加型イベントの実施／中高生作成の POP の展示／出張おはなし会・学級招待の実施／教育センターとの連携による調べ学習に対応した資料提供

評価と今後の方向性

評価	<input type="checkbox"/> 充分達成できた	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね達成できた	<input type="checkbox"/> やや不十分だった	<input type="checkbox"/> 不十分だった
<p>学校、幼稚園等へ出張して行うおはなし会の拡大や地域イベントへの参加、関連機関と連携した多様なイベントを積極的に実施してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント等の集会行事は中止となった。小学 1 年生に向けた利用案内の配布やパスファインダーの作成・テーマ展示等、子どもたちと図書館や本を結びつけるための様々なアプローチを行った。図書館司書と学校の担当者との研修会を行い、学校での調べ学習のための資料提供を行う「学校図書館支援センター事業」も活発に利用され成果をあげている。今後も、資料の収集・更新に努め、子ども向けのウェブサイトの充実等、子どもの発達に応じた読書環境の整備に力を入れていく。</p>				

三つめの柱 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

施策の方向

市川市の歴史・文化の保存と継承

行政の情報拠点としての役割

具体的な施策

- ・地域資料の収集と提供
- ・地域資料の保存
- ・地域情報の積極的な発信
- ・行政情報の市民への提供
- ・行政各課への情報発信

平成 30 年度～令和 2 年度の取り組み内容

地域行政資料の積極的収集／特別コレクションの新刊から古書までの積極的収集／館内 Web-OPAC にデジタルアーカイブシステム導入、公開（地図等の著作権保護期間満了の地域資料・「広報いちかわ」）／地域情報データベースのコンテンツの追加更新（市川の音楽・地図等）／関連部署、機関と連携した行事や展示の実施／市の刊行物の販売と市民向け各種冊子類の配布

評価と今後の方向性

評価	<input checked="" type="checkbox"/> 充分達成できた	<input type="checkbox"/> 概ね達成できた	<input type="checkbox"/> やや不十分だった	<input type="checkbox"/> 不十分だった
<p>地域行政資料の収集を積極的に行い目標の蔵書冊数 55,000 冊を達成した。館内 Web-OPAC に導入されたデジタルアーカイブシステムを活用し、著作権保護期間が満了した地図等を公開したほか、市の広報紙「広報いちかわ」の目録情報を整理して公開した。市川ゆかりの音楽、地図に関連する情報を整理しホームページで発信し、関連部署と連携した地域の文化や歴史に関わる展示を実施した。また、市民向け地域行政情報冊子の配布を行うなど、市川の情報に市民に伝わるよう努めた。引き続き、行政各部署等と連携し、幅広く資料の収集を行い、市川市の歴史と文化の保存と継承に努めていく。</p>				